



会員寄稿 「生き方」を学ぶ

進路課長 菅野 圭作

藤樹祭も終わり、3年生はいよいよ本格的に受験・就職のシーズンへと突入しました。学校では放課後遅くまで、教室や自習室に残って勉強する3年生の姿が見受けられます。また、部活動での吹奏楽部の生徒が奏でる音楽や運動部の生徒の元気なかけ声は、まるで黙々と勉強に取り組む3年生へのエールのように聞こえてきます。コロナ禍で休校になった昨年を考えると、生徒が学校で生き生きと活動できるという当たり前の日常が、本当に「有り難い（ありがたい）」ことであると痛感させられます。

さて、昨年度より大学入学共通テストが実施され、さらに2022年度より、新学習指導要領が高等学校でも導入されます。新しい学習指導要領は、①「生きて働く知識・技能の育成」、②「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、③「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間力の涵養」の3つの柱から成っています。これは激しく変化する予測不可能な現代社会において、その変化に臨機応変に対応する力、および自分の感性をもとに人生を豊かにする能力を育てるまさに「生きる力」の育成であると私は考えます。新学習指導要領は、来年度入学生からの導入ですが、私は受験勉強を通して、今の大洲高校生にもこの「生きる力」は身に付くと確信しています。

受験勉強とは「自分自身と向き合うこと」だと考えます。高校生活の中でこれほど長期間、継続して勉強を頑張らなければいけない機会はありません。そして受験は挑むのも逃げるのも自由です。そんな難易度が高く、自由度が高い課題にぶつかった時「自分のしたいことは何だろう」という大きなテーマについて考えることになります。自分が何をしたいか知るためには、自分の過去を深く考えてみたり、他人にアドバイスを受けてりしながら自己分析をする必要があります。私は自分の性格や思考と冷静に向き合うこの過程にこそ価値があると思います。また、膨大な量の学習項目に対して、計画性をもって自分にあった学習方法を模索し実行することで、社会で必要とされる事務処理能力や段取り力を自然と身に付けることができます。そして、受験勉強は決して一人だけではできません。共に頑張り、不安を分かち合える仲間や、いつも見守ってくれる家族、適切な助言をしてくれる先生方など、たくさんの人に支えられて成り立つことを知ること、感謝の心が生まれます。受験勉強は、まさに人間形成の糧であり、受験は今後の人生で訪れるであろう様々な壁を乗り越える訓練だと思います。大洲高生ならその壁をきつと乗り越え、社会で価値を生み出す存在、人を笑顔にさせられる存在になれると確信しています。

今、必死にもがきながらも「生き方」を学ぼうと、そして自分の夢の実現に向けて努力を重ね、一步一步進む生徒たちを、保護者の皆様と共に全力でサポートしていきたいと思っています。

